

## 1467-68年次ブルゴーニュ公財政の支出見積étatに関する史料論的考察：補論と続論

藤井，美男  
九州大学大学院経済学研究院

<https://doi.org/10.15017/7633>

---

出版情報：経済學研究. 72 (2/3), pp.45-66, 2005-12-08. Society of Political Economy, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：

# 1467-68年次ブルゴーニュ公財政の支出見積 $\acute{e}tat$ に関する史料論的考察

— 補論と続論 —

藤 井 美 男

はじめに<sup>1)</sup>

西欧中世の都市財政や君主財政において、会計処理を終えた後で正式に作成・提出される会計簿とは別に<sup>2)</sup>、会計処理をする過程で作成される実務的な文書が稀に伝来することがある。

- 1) 後注4で述べる理由から、本稿で参照する文献は以下の5点に限定した。引用する際は、著者名・出版年・当該ページ数を略記し文中に挿入して示す。Arnould, M.-A.[1974] Une estimation des revenus et des dépenses de Philippe le Bon en 1445, in *Acta Historica Bruxellensia. Recherches sur l'histoire des finances publiques en Belgique*, t.3, p.131-219. Arnould, M.-A. [1984] Le premier budget du duc Charles de Bourgogne (1467-1468), in *Bulletin de la commission royale d'histoire*, t.150, p.226-271. Sornay, J.[1987] Les états prévisionnels des finances duciales au temps de Philippe le Bon, in *Etudes bourguignonnes: finance et vie économique dans la Bourgogne médiévale: linguistique et toponymie bourguignonnes. Actes du 109<sup>e</sup> congrès national des sociétés savantes (Dijon, 1984), Section d'histoire médiévale et de philologie*, t.2, Paris, p.35-94. 藤井美男[2002]「近代国家形成過程に関する一考察——ヴァロワ朝初期ブルゴーニュ国家の財政改革を中心に——」政策評価研究会(九州大学大学院経済学研究院)編『政策分析2002——90年代の軌跡と今後の展望——』<九州大学出版会>p.203-234. 藤井美男[2004]「フランドル伯領—ブルゴーニュ公国における財政システム——中世後期予算観念の萌芽に至る軌跡をたどって——」政策評価研究会(九州大学大学院経済学研究院)編『政策分析2004——国際化・分権化時代の日本経済の存立基盤——』<九州大学出版会>p.377-404.
- 2) 西欧中世においては、エージェント(代理人)システムに基づく責任負担・責任解除が会計処理の原則をなしていた。その意味で、会計簿は財務を請け負った代理人が監査を受け、責任解除されるための「決算書」の意味合いも持った。これについて詳細は、拙稿(藤井[2002])を見られたい。

それはフランス語で $\acute{e}tat$ と呼ばれ、しばしば考察の対象となってきた。筆者も、近代国家形成過程を彩る一側面として、15世紀半ばに作成され伝存してきたブルゴーニュ公国財政の $\acute{e}tat$ に関する検討を前稿(藤井[2004])で行った。

$\acute{e}tat$ が、備忘録のように一時的に作成される性格を持つ文書であるため、用済みとなった後は廃棄されることが多く伝来しにくい史料であること、過去・現在・未来の財政に関する状態や会計処理を記したものだけに、一義的な分類や定義をすることが困難な史料であること、を前提にした上で、前稿では1445年次と1467-68年次のブルゴーニュ公財政のそれを比較分析したのである。

とりわけ後者については、1984年刊行のアルヌール版(Arnould[1984])と1987年刊行のソルネー版(Sornay[1987])とが知られているが<sup>3)</sup>、双子文書のような両版冒頭部分での細かな相違を比較分析することで、当時公国財政を司った会計官たちが、与えられた収入源の中で翌年次の支出を見通そうと力を尽くしていた様相を示してくれること、いわば一種の萌芽的「予算書」を作り出そうとしていた様相を描いた。

その際紙幅の制約もあって、2つの版の $\acute{e}tat$

- 3) 既刊、未刊を問わず中世後期ブルゴーニュ公財政について伝来する $\acute{e}tat$ 史料群の現況については、本稿後出表1と表2を見よ。

の前半部分だけの考察にとどめ、後半部分に関しては手つかずのままとなっていた。本稿は、この残された課題を果たそうとする試みである。とはいえ、議論の性格からして後半部分のみ完全に切り離して検討に付すことは適切ではない。そこで、前稿との重複を承知の上で、本稿でも両版の前段部分の分析から開始することとした。その際、後半部分の検討との絡みもあり、前稿では十分に意を尽くせなかった行論箇所についてかなりの加筆修正を加えた。その意味で、前稿の単純な復刻とはなっていない。補論・続論とする所以であり、この点も含めて大方の御批判、御叱正を乞いたいと思う<sup>4)</sup>。

#### I 1467-68年次état前半部分の検討

フィリップ＝ル＝ボン最晩年の時期にシャロレ伯だった公太子シャルルの1467年5月8日付の命令にもとづき、収支に関わるétatが複数作成され、同年の終わり頃会計院へ送付された(Arnould[1984]p.230-231)<sup>5)</sup>。リル文書館に伝来するこれらの史料に「予算」という刺激的なタイトルを付して初めて刊行したのはアルヌールであった(表1(4))。その後ソルネーが同じ年次の収入見積をディジョン文書館で、また支出見積に関してリル文書館でアルヌール版とは別の版を発見し刊行した(表2D3)。

ソルネーが公刊した1467年次のétat(収入見

積)は、ブルゴーニュを始めとして、ブラバント以下領邦ごとの収支を算定して個別に純収入を記録するというもので、ソルネーの整理では計605の細目から成り立っている。そこに記録された純収入の総額は209.390 lb. 3sである(Sornay[1987]p.80)<sup>6)</sup>。他方、アルヌールが刊行した分のétatは収入のみを記した要約版となっている。つまり、同じくブルゴーニュに始まる領邦ごとの記載ではあるものの、ソルネー版とは明らかに異なって支出関連の記載がなく、収支の相殺結果として出てくる純収入のみを個別に記述するという方式を採っているのである(表1(6))。その総収入は、209.043 lb. 19s. 4d.でソルネー版とほぼ同額である。ただし、この史料の次ページにはリエージュ領からの2収入が追加されており、それを含むと総額は238.841 lb. 3s. 9d.と若干膨らむ(Arnould[1984]p.266)。この追加費目の存在と純収入のみの記載という事実を勘案すれば、アルヌール版の収入見積は、ソルネー版収入見積の作成が終了した後に行われたと考えられよう。

さて問題は支出見積を記したétatである。上記ソルネー版では、1467年次の収入見積書にすぐ続き「前述の総収入を前提として、総会計長官によって執行されるべき支出」と印象的な冒頭分が記されている分である(表4)。アルヌール刊行分も同じ支出見積の異版である(表3)。この2つのétatの前半部分には殆ど違いがなく、うりふたつとあってよい。しかしまた、仔細に検討すると小さな相違の存在にも気づかされる。この小さな差が、étatの機能について

4) なお、本論では研究史の類については一切割愛した。先行する拙稿2作(藤井[2002]:[2004])でそれは尽きていると考えているからであり、そちらを参照頂くよう切に願う。

5) 1467年5月8日付で、収支に関わるétat généralの作成を命じるシャルルの命令状が公布されている(Arnould[1984]p.230)。既に1464年頃からシャルルは、父公フィリップ(1467年6月15日没)に代わって、特に外交・軍事を中心として公領統治に実権を握りつつあった。

6) 本文行論中、同時代の貨幣金額表記は見易さを考慮して、lb. s. とした。ただし、史料文を直接引用する場合や後出の表の中では原典のままとした。したがって、l. s. のように記している場合がある。

表1 15世紀ブルゴーニュ公財政におけるétatの伝来状況 I

区分	起草年	内容	原典所在地	刊行状況
(1)	1445年 4月8日以前	ブルゴーニュ公、公妃、 宮廷などの支出見積	Arch. Dép. Nord, B 14	Arnould[1974] no.2, p.169-174
(2)	1445年 3-4月	エノー伯領の収支概要	Arch. Générale du Royaume, Chambre des Comptes, Doss. Admi. 171	Arnould[1974] no.3, p.174-205
(3)	1445年 4月8日	ブルゴーニュ公国財政収 支概要(上記(1)の基礎資 料)	Arch. Dép. Nord, B 14	Arnould[1974] no.4, p.206-211
(4)	1467年 10月1日以前	1467-68年次ブルゴー ニュ公国支出見積	Arch. Dép. Nord, B2069/no.65.014	Arnould[1984] no.1, p.248-253
(5)	1467年 10月1日	1467年次末3ヶ月分の支 出見積	Arch. Dép. Nord, B2069/no.65.020	Arnould[1984] no.2, p.253-258
(6)	1467年 12月	1467-68年次ブルゴー ニュ公国収入見積	Arch. Dép. Nord, B2069/no.65.027	Arnould[1984] no.5, p.261-271

実は大きな事実を物語ってくれる。そこで、これら2つの版からそれぞれ最初の十数費目の部分をなるべく刊本に忠実な仕方で抽出し、まず第一段階の比較考察として検討していこう。

ソルネーは、論文中刊行した史料すべての勘定費目に連番を付しており、ここでまず検討に伏すのは、606番から620番である。これを本稿行論中ではS.606～S.620と記す。アルヌール版の同一費目部分には番号付けがなされていない。ここではソルネー版との比較のために該当箇所への連番を付し、便宜上同様にA.1～A.13と表記する。

表3と表4を比べてまず注目されるのが、各出費項目間の異同である。A.7に相当するS.614の服飾関係費の前に、アルヌール版には存在しない債務S.613がソルネー版では記されている。これが、A.9では支出合計89,000 lb.とあるのに対し、S.616の次行の合計欄は空欄となっている事実に反映している。つまり、S.613の債務は「年次進行に伴って支払うべきもの」となっていて、その時点で額が未確定ゆえそうした記

帳結果となったに違いない。ただし空欄とはいえ、S.613で具体的に債権者名が複数記されているので、この債務が全く根拠のないものでないことは明らかである。

次に、A.8は建築・補修に関する費目（ただし額は空欄）であるが、ソルネー版にはなぜか該当欄が存在しない。これが文書作成時に後で追記された一文であること（Arnould[1984] p.248）を考慮すると、S.613の債務の場合とは逆の意味で示唆的である。というのも、建築・補修にかかる費用は通常巨額となるはずで、それがA.8でだけこのような記述になっているということは、この費目が事前に十分予定されたものでなく、具体的な根拠が薄弱なまま文書作成の関係者によって一種独断で追記された部分とも受け取れるからだ。

同様に巨額なシャロレ伯（即ちシャルル自身）に関する経常・臨時支出は、S.617とS.618で計34,800 lb.と計上されるが、逆にアルヌール版には出てこない。他方、公娘マリーの経常・臨時および内宮の出費については、いずれの版

表2 15世紀ブルゴーニュ公財政におけるétatの伝来状況Ⅱ

(Sornay[1987]より)

第1区分 (対象時期)	第2 区分	起草年	内 容	原典所在地 (*印は Sornay[1987]中刊行分)
A (1424-1427)	A1	1424年	ブルゴーニュ公領總會 計の収支見積	Arch. Dép. Doubs, B 528
		1426年	ブルゴーニュ公領總會 計の財務概要	Arch. Dép. C. d'Or, B 1383 <sup>10</sup>
		1425-26年	フランドル伯領總會 計の財務概要	Arch. Dép. Nord, B 4093
	A2	1425-26年	アルトワ・ピカルデー 各領邦会計の収支見積	Arch. Dép. C. d'Or, B 488
	A3	1427年	ブルゴーニュ公経常・特 別支出官 G.ギルボーの 財務概要と収支見積	*Arch. Dép. C. d'Or, B 486 <sup>2</sup>
B (1437-1439)	-	-	1437年の命令により、全 領邦について毎年の収 支見積が恒常化。30通ほ ど伝来	Arch. Dép. Nord, B 20142
C (1441-1445)	C1	1441年	シャロレ・マコン各領と 公妃の個別会計の財務 概要など	Arch. Dép. Doubs, B 1104 <sup>1</sup> , 1081,1384,1448,1567,1585,2132 Arch. Dép. Nord, B 20142
	C2	1444年	同 上	Arch. Dép. Doubs, B 1104 <sup>1bis</sup> , 1081,1384,1448,1567,1585,2132
	C3	1445年 4月8日	①公領全体の収支概要	前表1(3) 参照
		1445年	②エノー伯領の収支概 要	前表1(2) 参照
	C4	1445年 4月5日	ブルゴーニュ公領個別 諸会計の財務概要など の集成	Arch. Dép. C. d'Or, B 1383 <sup>bis</sup>
C5	1445年	同 上	Arch. Dép. Doubs, B 1104 <sup>3</sup> , 1081	
D (1451以降)	D1	1451年	公妃とサラン会計の財 務概要	Arch. Dép. C. d'Or, B 1383 <sup>20</sup>
	D2	1463-72年	諸領邦の財務概要	各文書館に散在
	D3	1467年	ブルゴーニュ公国全体 の収支見積 (前表1(4),(6) 参照)	*収入 Arch. Dép. C. d'Or, B 1383 <sup>70</sup> (Sornay[1987]no.2, a), p.58-80) *支出 Arch. Dép. Nord, B 2072 (Sornay[1987]no.2, b), p.81-85)

においても、合計15.240 lb. と同額で記されている。公娘に関する支出以降の費目は、個人に対する定期金や給付金の支払費目で、それがいずれの版においても最後まで延々と続くことになる。この後半部分の検討は次節で行う。なお、もう1つ小さな相違をここに記せば、肉屋

その他への債務として総額20.000 lb. がA.10とS.615で記帳されているが、後者ではその臨時支出を想定した内訳が8.000 lb. と記されている。

以上のように、1467-68年次の支出見積に関して2つの版の冒頭部分を抽出しただけでも、幾つかの差異を指摘することができる。そして

表3 アルヌール版支出見積書(1467-68年次)抜粋

(Arnould[1984]no.1, p.248-250)

(注:[ ]内はアルヌールにより、&lt; &gt;内は同時代に追記された一文)

Le cler des demaines de feu monseigneur le duc de Bourgogne (ayans presentement cours) monteront pour cest an selon ung quayer de pappier ou icellui est declairé au long a la somme de [blanc].

Sur lequel cler sont a conduire les parties qui s'ensuivent :

Et premiers	
1. Pour la despence ordinaire de l'ostel de monseigneur le duc, laquelle se compte par les escroes	72.000 lb.
2. Ambassades, gros voyages et messageries, a 500 lb. par mois	6.000 lb.
3. Dons et deffraiemens d'ambassades	4.000 lb.
4. Escuierie, ou sont comprins habillemens des pages, harnas de guerre et de chevaulx, peintures et autres parties	2.000 lb.
5. Offrandes, aumosnes et obsecques	2.000 lb.
6. Frait de monnoies et perte de finances	1.000 lb.
7. Achat de draps, de soye et de layne	2.000 lb.
8. <Ouvraiges pour les maisons et forteresses des païs de monseigneur> (au bas de la page:) Somme: 89.000	[blanc]
(p.2) 9. Deniers payéz en l'acquit de feu monseigneur, tant aux marchans bouchiers que autrement en deduction d'icelles debtes	20.000 lb.
10. Achat et conduite de l'artillerie	6.000 lb.
11. A madamoiselle de Bourgogne pour sa despence ordinaire et extraordinaire	15.000 lb.
12. Et pour les filles de son hostel	240 lb.

.....<以下略>.....

瞥見した範囲だけで言えば、ほぼ同一内容を保持するとはいえソルネー版の方に追記が多く見られ、シャルルの支出が計上されていることも併せると、上述の収入見積の場合とは逆に、アルヌール版の支出見積の方がソルネー版のそれより時間的に先行して作成されたことを想像させる<sup>7)</sup>。そしてそれは、今1つの重要な箇所、つまり同じく冒頭部分での収入見積金額の有無を見ることによって、さらに確かなものとなる。つまり、アルヌール版の支出見積の冒頭には、収入額が空欄——アルヌール自身の手で [blanc] ——となっている。これに対し、前述したようにソルネー版のそれでは、《Somme par

soy...209.390 l. 3s.》という金額が記されている。これが収入見積の方で記された金額にぴったり一致していること (Sornay[1987] no.2, p.80)、またアルヌール版での収入見積の合計もほぼ同一額であることは既に述べた通りである。とするならば、当時収入見積の取りまとめが12月後半頃完成するよりも前に<sup>8)</sup>、アルヌール版の支出見積が作成されたことは疑いの余地はなからう。それ故、アルヌールがその刊行年月を財政年次開始の10月1日以前と想定したのは確かに正鵠を射ていたことになる (Arnould[1984]p.232)。

7) そう考えれば、前述A.8の含意が分かるであろう。

表4 ソルネー版支出見積書(1467-68年次)抜粋

(Somay[1987]p.80-81)

(注:ハイフン中星印の字句は同時代の追記、( )内は同時代に削除された部分)

606	(f <sup>o</sup> 1) <b>Le cler des demaines et aydes de</b> — * feu — monseigneur le duc de Bourgoingne ayans presentement cours montera ( <i>par an par extimacion</i> ) — * pour cest an — selon ung cayer de pappier ou — * icellui — sont declairez. ( <i>les receptes dont receveur general de toutes le finances de mondit seigneur fait recepte a la somme</i> ) — * au lonc a la somme de — 209.390 l. 3 s. de 40 gros. Somme par soy ..... 209.390 l. 3 s. de 40 gros
<b>Sur lequel cler sont a conduire par ledit receveur des finances les parties qui s'ensuivent :</b>	
Et primes	
607	Pour la despense ordinaire de l'ostel de monseigneur le duc, laquelle se compte par les escroes .....72.000 l.
608	Ambassades, gros voyages et messageries a 500 l. par mois ..... 6.000 l.
609	Dons et deffraiemens d'ambassades ..... 4.000 l.
610	Escueries ou sont comprins habillemens des pages, harnas de guerre et de chevaux, pain- tures et autres parties ..... 2.000 l.
611	Offrandes, aumosnes et obsecues ..... 2.000 l.
612	Frait de monnoyes et perte de finances ..... 1.000 l.
613	Au paiement des debtes deues tant du temps de feu Richart Juif comme de Robert de le Bouvire et autres, l'on ne met icy riens pour ce que en l'estat ordinaire l'on y prent en despense tout ce que monte icelle despense en l'annee courant, ja soit ce que tout ne se paye en icelle annee, pour ce .... Neant
614	Achat de draps de soye et de layne ..... 2.000 l.
615	Deniers paieez en l'acquict de — * feu — monseigneur ( <i>et parties extraordinaires et qui est deu par extimacion</i> ) ..... 8.000 l.) — * ( <i>pour compte</i> ) tant aux marchans bouchiers que aultrement, ( <i>par</i> ) en deduccion d'icelles debtes .....20.000 l.
616	(f <sup>o</sup> 1 v <sup>o</sup> ) Achact et conduite de l'artillerie ..... 6.000 l. * — <b>Somme</b> — (en blanc)
617	A monseigneur le conte de Charolloys, pour sa despense ordinaire .....30.000 l.
618	Et pour sa despense extraordinaire ..... 4.800 l.
619	A madamoiselle de Bourgoingne, pour sa despense ordinaire et extraordinaire .....15.000 l.
620	Et pour les filles de son hostel ..... 240 l.

.....<以下略>.....

他方、ソルネー版での収入見積の総額が追加ページ部分を除いたアルヌール版のそれを若干上回っているということは、アルヌール版とは異なる作業過程を通じて、収入見積の取りまと

めとその書類作成が行われたこと、その作業完了の後、判明したばかりの収入総額を記入した上でソルネー版の支出見積が執筆されたこと、従ってそれは12月後半以降の可能性が高いこと

を物語っているのである。

## II 1467-68年次état後半部分の検討

次に1467-68年次étatの後半部分について、アルヌール版とソルネー版の比較検討に移ろう。総項目数45となる前者にはA.1～A.45、同じく94項目となる後者にはS.606～S.699という番号を前節と同様に付して考察する<sup>9)</sup>。表5はソルネー版全体をほぼ忠実に再現したもので、かなり大きな内容を含むことが分かる。

表5の構成にあたって、筆者が独自に設けた欄には星印をつけて示した。「支出対象」、「アルヌール版での項目」および「備考」欄がそれぞれ、特にアルヌール版の項目と対照することが極めて有効な結果をもたらしてくれる。これにより、膨大なソルネー版にはアルヌール版に盛り込まれた情報が殆ど網羅されているということが一目瞭然となるからである。しかもそれは次の点でも意味深長である。

というのも前項で見た通り、前半部分についてはほぼ同一内容を保つ両版だが、後半部分の記載項目数がアルヌール版ではソルネー版に比べて極端に少なく、アルヌール版にのみ記されていて、ソルネー版には記されていない項目というのが、前にも触れたA.8に加え、A.15とA.45のわずか3項目に過ぎないことが明らかとなるのだ<sup>10)</sup>。表6と表7上段がそのことを浮き彫りにしている。つまり、両版を比較検討する際に

は、表5のような仕方でソルネー版を再構成し、対照した結果を表6と表7で示すだけでは事足りるということになる。

ここで逆に、ソルネー版後半部分でS.613からS.699の79項目(注9での重複を含む)中から、アルヌール版に出現しないものを抽出してみよう。結果は表7下段に示す通り、総数53項目にものぼる。これは極めて示唆的である。なぜなら前節で言及した通り、このétatを作成した目的が、前年度の収入をもとに次年度の支出を確定することにあつたことは間違いのないとして、一方でこの支出見積の後半部分が、全体として定期金や給付金の支出額を網羅したものであることが一瞥して明らかであり、他方、アルヌール版作成以降もそうした支出対象を確定する作業を続けたことがソルネー版によって判明するからである。

しかもその際、重要人物と思しき者への支払額収集・整理を1つの主眼としていることが、次の2点からの検討によって確かともなる。第1は、ソルネー版で各費目の先頭に付されたローマ数字の存在である。ブルゴーニュ公自身と公娘に関係する部分のI～IIIから始まり、合計XXIIIの数字が付されている。Xが都合3度(S.630, S.639, S.643)、XIIは2度(S.632, S.644)重複記述されており、それを示すためか1カ所ずつ“bon”という言葉が附記されている。表6では、アルヌール版も加え、ローマ数字を含んだソルネー版の当該項目を対照して見て取ることができる。これから分かる通り、ローマ数字が記され

8) いずれの収入見積にも正確な日付の記述がないが、1467年12月18日に発生した対リエージュ戦役に関する言及があることから、それ以後に記されたことは確実だとされる(Arnould[1984]p.235)。

9) ただしソルネー版については、アルヌール版との比較上必要なため、原版にはない項目分けを筆者が独自に行いS.643b, S.662bを追加した。従って表5では総項目数は96となる。

10) A.15と最終のA.45はそれぞれ同時代に追記された次の2項目である。

<A Philippe Monseigneur de Savoye 4.800 lb.>  
<Item prenoit pour les labeurs qu'il avoit a cause de l'Espargne et par les mains du receveur de l'Espargne en 100 livres 100 lb.>



表5 ソルネー版とアルヌール版各éatの比較検討①

(ソルネー版全体の再構成・一部再掲)

Etat de la depense <a conduire> pour le receveur général de toutes les finances

**Le cler des demaines et aydes de -**

\*feu - monseigneur le duc de Bourgoingne ayans presentement cours montera (*par an par extimacion*) - \* pour cest an - selon ung cayer de pappier ou - \* icellui - sont declairez (*les receptes don't le receveur general de toutes les finances de mondit seigneur fait recepte a la somme*) - \* au lonc a la somme de - 209.390 l. 3 s. de 40 gros.

606 f° 1

Somme par soy . . . . . 209390 l. 3 s. de 40 gros

**Sur lequel cler sont a conduire par ledit receveur des finances les parties qui s'ensuivent :**

Et primes

番号	支出内容	*支出対象	金額	*アルヌール版での項目	*備考
607	Pour la despense ordinaire de l'ostel de monseigneur le duc, laquelle se compte par les escroes	Duc	72000 l.	A.1	新公シヤルル
608	Ambassades, gros voyages et mesageries a 500 l. par mois	Ambassades	6000 l.	A.2	派遣使節
609	Dons et defraiemens d'ambassades	Ambassades	4000 l.	A.3	受入使節
610	Escueries ou sont comprins habillements des pages, harnas de guerre et de chevaux, peintures et autres parties	Escueries	2000 l.	A.4	盾持とその武具・従者
611	Offrandes, aumonsnes et obsecques	Offrandes, etc.	2000 l.	A.5	下賜・布施・葬儀

	Frait de monnoyes et perte de finances	Frait de monnoyes, etc	1000 l.	A.6	造幣費用と雑損
612					
613	Au paiement des debtes deues tant du temps feu Richart Juif comme de Robert de le Bouvrie et autres, l'on ne met icy riens pour ce que en l'estant ordinaire l'on y prent en despense tout ce que monte icelle despense en l'annee courant, ja soit ce que tout ne se paye en icelle annee, pour ce	Frichart Juif	Neant	(Aなし)	特定個人への債務
614	Achat de draps de soye et de layne	Draps de soye etc.	2000 l.	A.7	絹・毛織物購入
615	Deniers paieez en l'acquit de - *feu -monseigneur (et parties extraordinaires et qui est deu par extimacion... 8000 l.) -* (pour compte) tant aux marchans bouchiers que aultrement, (par) en deduccion d'icelles debtes	Marchans bouchiers, etc.	20000 l.	A.9	肉屋への支払い (過去の債務を含む)
616	ƒº I vº	Artillerie	6000 l.	A.10	大砲購入・移動
	*-Somme-	[en blanc]			小計 115.000 l. となる
617	A monseigneur le conte de Charrolloys, pour sa despense ordinaire	Conte de Charrolloys	30000 l.	(Aなし)	シャロレ伯 (公自身) の経常費
618	Et pour sa despense extraordinaire	Conte de Charrolloys	4800 l.	(Aなし)	同上特別費
619	II A madamoiselle de Bourgoingne, pour sa despense ordinaire et extraordinaire	Madamoiselle de Bourgoingne	15000 l.	A.11	公娘の経常・特別支出
620	III Et pour les filles de son hostel	Madamoiselle de Bourgoingne	240 l.	A.12	公娘侍女費
621	A monseigneur de Cleves qui prent par an a sa vie 4.800 l. dont il est assigné sur Brabant, pour ce icy quant a la charge de la dicte recepte generale	Cleves	Neant	(Aなし)	

622	V	A monseigneur de Ravestain	Ravestain	4000 l.	A.14	
623	VI	A monseigneur le bastard de Bourgoingne	Bastard de Bourgoingne	3840 l.	A.16	ブルゴーニュ公麻子
624	III	A monseigneur Jaques de Bourbon	Jaques de Bourbon	4800 l.	A.13	
625		A monseigneur Adolf de Ghelres lui estant devers monseigneur	Adolf de Ghelres	4800 l.	(Aなし)	
626	VII	A monseigneur d'Arguel	Arguel	1440 l.	A.17	
627	VIII	A messire Bauduin, bastard de Bourgoingne	Bauduin	1440 l.	A.18	ブルゴーニュ公麻子
628		A messire Simon de Lalaing, qui prent par jour 36s. Outre ses gaignes ordinaires, qui est par an	Simon de Lalaing	657 l.	(Aなし)	
629		A monseigneur de La Roche, semblablement	La Roche	657 l.	(Aなし)	
630	X, bon	A monseigneur de Crequi, pour sa pension	Crequi	800 l.	A.24	
631		A monseigneur d'Auxi, comme premier chambellan de monseigneur de Charrolloys	Auxi	600 l.	(Aなし)	シャロレ伯の初代官房長
632	XII, bon	Item pour la recompense de la terre d'Auxi qui fut brulee par les Anglois	Auxi	320 l.	A.25	Auxi の消失家屋補償
633		A monseigneur Jaques de Luxembourg, qui prent par mois 100 F. lui estant devers monseigneur, font par an	Jaques de Luxembourg	960 l.	(Aなし)	
634	( <sup>no</sup> 2)	A monseigneur d'Arceys, qui prent 36s. Par jour du temps qu'il est royé par les escroes, qui peut monter par an	Arceys	657 l.	(Aなし)	
635		A monseigneur de Beauchamp, qui prent par jour 36 s. lui estant devers monseigneur, qui est par an	Beauchamp	657 l.	(Aなし)	
636		a messire Adrian de Mailly, qui prent par jour 36 s., font par an	Adrian de Mailly	657 l.	(Aなし)	

637	IX	A Philippe de Bievres, qui prend 50 escus par mois, font par an	Phillippe de Bievres	720 l.	A.19	
638		A monseigneur le mareschal de Bourgoigne, qui prant de gages lui estant devers monseigneur 8 F. par jour, qui est par an	Mareschal de Bourgoigne	2336 l.	(Aなし)	
639	X	A monseigneur le bastard de Bourgoigne, comme capitaine de Picardie	Bastard de Bourgoigne	800 l.	A.20	ブルゴーニュ公庶子
640	XI	A messire Michiel Aligery, qui prant 24 s. par jour, font par an	Michiel Aligery	438 l.	A.21	
641		A Dom Pedro de Guevara, pour semblable	Pedro de Guevara	438 l.	(Aなし)	
642		Messire Chretien de Digoinne, pour semblable lui estant devers monseigneur	Chretien de Digoinne	438 l.	(Aなし)	
643	X	A monseigneur le chancelier, pour gages	Chancelier	2920 F.R.	A.22	官房長官給付金
643b		- * Et pour pension	Chancelier	2000 F.R.	A.23	同上 定期金
644	XII	Monseigneur de Middelbourg, comme commis aux finances de monseigneur qui prant (36 s. par jour, par mois, font 648 l.)	Monseigneur de Middelbourg	1200 l.	A.42	Pierre Bladelin のこと (A.29 を見よ)。 実際は 657 lib. A版では月 100lb. と記載
645	XIII	(Guillaume de Poupet) Monseigneur de La Chaul, aussi comme commis aux finances a 40 s. par jour, font par an	Guillaume de Poupet	730 l.	A.43	
	( <sup>o</sup> 2 v <sup>o</sup> )	[Somme : ]	(7.871 l.)	8.519 l.		
646		Le receveur general desdictes finances, pour ses gages de 48 s. par jour, font par an	Receveur general de finances	876 l.	A.26	

647		A maistre Pierre Milet, a cause du contrerole d'icelles finances a 40 s. par jour, qui est par an	Pierre Milet	730 l.	A.44	財務官?
648	XIV	A ceulx de la chapelle de l'ostel de monseigneur, par an environ	Ceulx de la chapelle	9000 l.	A.27	宮廷司祭
649		A maistre Anthoine Mauret, aumosnier, pour sa robe par chascun an	Anthoine Mauret	32 l.	(Aなし)	
650		A maistre Jaques Anthoine, soubz aumosnier, pour semblable	Jaques Anthoine	32 l.	(Aなし)	
651	XV	A maistre Jehan Gollen, ou lieu de feu monseigneur de Salubrie, pour sa robe	Jehan Gollen	72 l.	A.28	
652		A monseigneur de Middelbourg, pour ses gages de tresortier de la thoison d'or	Monseigneur de Middelbourg	180 l.	A.29	
653		A Thoison d'or, qui prant 24 s. par jour lui estant devers monseigneur, qui font par an	Thoison d'or	438 l.	A.31	金羊毛騎士
654		A maistre Martin Steenberch, greffier de la toyson d'or, pour ses gages par an	Martin Steenberch	180 l.	A.30	金羊毛騎士
655		A maistre Roland Lescrivain, pour sa pension	Roland Lescrivain	80 l.	(Aなし)	
656		A maistre Gondesalve, pour semblable	Gondesalve	120 l.	(Aなし)	
657		A maistre Jehan Spierinc, qui prent par 6 mois en l'an lui estant present 18 s. par jour, qui font	Jehan Spierinc	165 l. 12 s.	(Aなし)	
		Somme:		11905 l. 12 s.		
658	( <sup>no</sup> 3)	A maistre Guillaume Le Brun, pour sa pension par an	Guillaume Le Brun	180 l.	(Aなし)	
659		A maistre Jehan Caudet, pour ses drogues, par an	Jehan Caudet	100 l.	(Aなし)	薬品費
660		A maistre Laurens Bruninck, pour semblable	Laurens Bruninck	20 l.	(Aなし)	薬品費

		A maistre Guillaume du Bois, pour semblable	Guillaume du Bois	20 l.	(Aなし)	薬品費
661		A maistre Guillaume du Bois, pour semblable				
662	XVI	A *-u- (monseigneur de Morueil comme) gouverneur de l'artillerie	Morueil	90 l.	A.32	砲兵大将
662b		Item encores de pension par an	Morueil	240 l.	A.33	同上 定期金
663		Au receveur de l'artillerie	Artillerie	200 l.	A.34	砲兵主計
664		Au contreoleur d'icelle artillerie, pour ses gages de 9 s. par jour, font par an	Controleur de l'artillerie	164 l. 5 s.	(Aなし)	砲兵将校
665	XVII	A Hansse van den Berghe, cannonier, pour sa pension	Hansse van den Berghe	60 l.	A.35	砲兵将校
666	XVIII	A Hansse van den Wesque, pour semblable	Hansse van den Wesque	30 l.	A.36	
667		A maistre Artus de Bourbon, pour sa pension	Artus de Bourbon	200 l.	(Aなし)	
668	XIX	A maistre Pierre Bogart, procureur de monseigneur en court de Romme, pour ses gages par an	Pierre Bogart	225 l.	A.37	
669		A maistre Anthoine Grant, pour sa pension par an	Anthoine Grant	32 l.	(Aなし)	
		Somme:		1561 l. 5 s.		
670	(p 3 v <sup>o</sup> )	Aux secretaires de monseigneur, pour leur papier et parchemin d'ung an environ	Papier et parchemin	400 l.	(Aなし)	
671		A Guy de Blaesvelt, pour sa pension a cause de l'entretènement des oysaux d'esté	Guy de Blaesvelt	200 l.	(Aなし)	鷹匠?
672		A Garin de Brimeu, pour la venerie de l'ostel de monseigneur	Garin de Brimeu	2293 l. 4 s.	(Aなし)	狩猟職
673		A Hervé de Meriadec, qui prend lui estant absent 24 s. par jour, qui est par an	Hervé de Meriadec	438 l.	(Aなし)	同上の補佐?

674		Aux pages, pallefreniers et varietz de pié, pour leur extraordinaire (Aux 4 compaignons de litiere, a 3 s. chascun par jour. monte par an ...219 l.)	Pages, pallefreniers, varietz de pie	336 l.	(Aなし)	徒歩使節
675	XX	A messire Vasquemado, pour ses gages de 18 s. par jour, qui est par an	Vasquemado	328 l. 10 s.	A.38	
676		A Phelippe de Poitiers, qui prant par jour 18 s. par 9 mois non comptez par les escrocs, monte	Phelippe de Poitiers	246 l. 2 s.	(Aなし)	
677		A Jehan des Masis, dit Gappamus, qui prant par an a sa vie	Jehan des Masis	180 l.	(Aなし)	
678	XXI	A Henry de Domfrise, a cause de 12 s. par jour, qui est par an	Henry de Domfrise	219 l.	A.39	
		Somme: 4.859 l. 16s. Somme:		99751 l. 13 s.		
	(P 4)	Autres pensions precedemment mises sur la dicte recepte generale			(Aなし)	
679		Monseigneur d'Alby, de pension par an	Monseigneur d'Alby	800 l.	(Aなし)	
680		Monseigneur l'evesque de Tournay, comme chief du conseil lui estat devers monseigneur	Monseigneur l'evesque de Tournay	2739 l. 4 s.	(Aなし)	公評議會顧問
681		Monseigneur de Nevers, de pension par an	Monseigneur de Nevers	4800 l.	(Aなし)	
682		Messire Jehan de Luxembourg, lui estant devers monseigneur 36 s. par jour, qui est par an	Messire Jehan de Luxembourg	657 l.	(Aなし)	
683		Monseigneur de Croy, pour gages et pension par mois 160 l., qui est par an	Monseigneur de Croy	1920 l.	(Aなし)	

684		Monseigneur du Bourg, 36 s. par jour lui estant devers monseigneur, qui est par an	Monseigneur du Bourg	657 l.	A.41	
685		Monseigneur le conte de Nassou, de pension par an	Monseigneur le conte de Nassou	200 l.	(Aなし)	
686		Monseigneur d'Orville, pour semblable	Monseigneur d'Orville	240 l.	(Aなし)	
687		Guichart de Thiembromnes, capitaine d'Ardre, a cause de la garde dudit lieu, par an	Guichart de Thiembromnes	2400 l.	(Aなし)	Ardre 守備隊長
688		Phelippe d'Orville, 18 s. par jour lui estant devers monseigneur, qui est par an	Phelippe d'Orville	328 l. 10 s.	(Aなし)	
		Somme:		14741 l. 14 s.		
689	( <sup>o</sup> 4 v°)	A maistre Guillaume de Bery, pour sa pension par an	Guillaume de Bery	200 l.	(Aなし)	
690		A maistre Jehan Jonglet, pour semblable	Jehan Jonglet	16 l.	(Aなし)	
691		Jaques de Montmartin, a cause de son office de veneur extraordinaire en Haynau 12 s. par jour, qui est par an	Jaques de Montmartin	219 l.	(Aなし)	来客応接係
692		Maistre Pierre de Betz, cirurgien, 12 s. par jour, font	Pierre de Betz	219 l.	(Aなし)	外科医
693	XXVII	Jehan Butiniere, artilleur, 8 s. par jour, font	Jehan Butiniere	146 l.	A.40	砲兵将校
694	XXIII	Quentin et Guillaume du Flocq, freres, cannoniers, ( <i>de Clignon</i> ), pour leur pension a chacun 30 l., font	Quentin et Guillaume du Flocq	60 l.	(Aなし)	砲兵将校
695		Ghevalt van Doorne, comme gouverneur de Clicon 10 s. par jour, font par an	Ghevalt van Doorne	182 l. 10 s.	(Aなし)	代官
696		Les trompettes et menestrels, de pension par an chacun 96 l., qui monte	Trompettes et menestrels	768 l.	(Aなし)	楽士、吟遊詩人



697	Marie Coterel, vesve de feu Pierart des Prez, par an	Marie Coterel	16 l.	(Aなし)	寡婦
698	La vesve de feu Pave d'Alexandrie, de pension par an pour le douaire de son mariage	Vesve de Pave d'Alexandrie	96 l.	(Aなし)	寡婦
699	Damoiselle Coline du Biez, femme de messire Waleran de Beauval, de pension par an	Coline du Biez	100 l.	(Aなし)	寡婦?
	Somme: 2.022 l. 10s. Somme:		16764 l. 4 s.		

表6 ソルネー版とアルヌール版各étatの比較検討②

ソルネー (S) 版から見たアルヌール (A) 版

S 版	S版での ローマ数字	A 版
S.607	I	A.1
S.608		A.2
S.609		A.3
S.610		A.4
S.611		A.5
S.612		A.6
S.614		A.7
S.615		A.9
S.616		A.10
S.619	II	A.11
S.620	III	A.12
S.622	V	A.14
S.623	VI	A.16
S.624	III	A.13
S.626	VII	A.17
S.627	VIII	A.18
S.630	X, bon	A.24
S.632	XII, bon	A.25
S.637	IX	A.19
S.639	X	A.20
S.640	XI	A.21
S.643	X	A.22
S.643b		A.23
S.644	XII	A.42
S.645	XIII	A.43

S 版	S版での ローマ数字	A 版
S.646		A.26
S.647		A.44
S.648	XIV	A.27
S.651	XV	A.28
S.652		A.29
S.653		A.31
S.654		A.30
S.662	XVI	A.32
S.662b		A.33
S.663		A.34
S.665	XVII	A.35
S.666	XVIII	A.36
S.668	XIX	A.37
S.675	XX	A.38
S.678	XXI	A.39
S.684		A.41
S.693	XXII	A.40
S.694	XXIII	A.なし

た費目はS.694を例外として、他はすべてアルヌール版に出現している。この数字が何を意味するのか、実は刊行者のソルネーも詳らかにしていない(Sornay[1987]p.80)。しかし、表5の支出対象欄を見ると、ブルゴーニュ公の庶子3人(S.623, S.627, S.639)の存在が附記されており、またブルボン家の人物やヘルレ公(S.624, S.625)、あるいは宮廷司祭たち(S.648)への給付の言及を見ると、アルヌール版から既に記載され、続くソルネー版でローマ数字を付されたのは、比較的高額の支払いを行うべき重要度の高い人物であろうことが推測できる<sup>11)</sup>。

この推論を補強するのが第2点である。アル

ヌール版には同じ形では記載されていないが、ソルネー版の後半部分に出現する特別記載項目部分を見てみよう(表5)<sup>12)</sup>。S.679からは記載頁葉を改め、その冒頭に「前年次の収入から支出すべきことが予め定められている他の定期金」《Autres pensions precedemment mises sur la dicte recepte generale》とわざわざ断り書きを入れて、トゥールネ司教やヌヴェール領主(S.680, S.681)などかなり高額な定期金支払いが設定さ

11) これには、たとえ給付金額が小さくとも、ブルゴーニュ公の側用人とも言うべき立場の氏名がかなり頻繁に記載されているという事実も加えるべきであろう。

表7 ソルネー版とアルヌール版各étatの比較検討③

アルヌール版だけにあるもの右3項目	A.8, A.15, A.45
-------------------	-----------------

ソルネー版だけにあるもの以下53項目	
S.613, S.617, S.618, S.621, S.625, S.628, S.629, S.631, S.633, S.634	10
S.635, S.636, S.638, S.641, S.642, S.649, S.650, S.655, S.656, S.657	10
S.658, S.659, S.660, S.661, S.664, S.667, S.669, S.670, S.671, S.672	10
S.673, S.674, S.676, S.677, S.679, S.680, S.681, S.682, S.683, S.685	10
S.686, S.687, S.688, S.689, S.690, S.691, S.692, S.694, S.695, S.696	10
S.697, S.698, S.699	3
合計	53

れているのがここでも判読できるのである。

以上の結果を整理すれば、給付額の小さい人物ももちろん記載されており、すべて正確に個人の比定を行うのは困難だとしても、史料中その他の費目記載部分や刊行者たるアルヌールによる注記から<sup>13)</sup>、高額な定期金や給付金の受領者の多くが、高位の人間、ブルゴーニュ公家の傍系親族あるいは公自身に関連の深い人物であることが分かる。従って、情報量がまだ少ないアルヌール版の作成という早い時点から、そうした人物への支払いを明確にすることが、この支出見積état作成の大きな目的となっていたことが窺えるのである。

最後に小計と合計金額に関する問題点について述べ、検討を終えることにしよう。表8には、ソルネー版に記された当該費目番号と頁葉、金額と小計を抽出したものに加え、右の2

- 12) この一群の項目中、ソルネー版のローマ数字XXIIの付いたS.693だけが、アルヌール版のA.40に記載されている。  
 13) アルヌールは、支出対象者となっている人物が同定できる限り、刊本で注記を行っている。表5の備考欄ではそれを反映させて記述している。

欄に筆者が独自に小計と合計を算出した金額と備考を記載した。

ソルネー版étatの記述者は、各頁葉の最後の部分にその葉の小計を記すというごく自然な記載方式を採っている<sup>14)</sup>。ただしこの原則は厳密ではない。まず、最初の小計欄は本来のS.615の次ではなく、第1葉裏最初の項目S.616の次に来ており、しかも前述のごとくここは空欄となっている。S.613の額をゼロとして、S.607からS.616まで単純に小計してみるとその額は115,000 lb.となる。また、第1葉裏の最終項目S.633の最後に配してしかるべき小計が行われていない。実際に計算してみると小計は、74,354 lb.となる。更に、第2葉表の小計額は必ずしも正確とはいえない<sup>15)</sup>。

- 14) 表8では頁葉の区切りを二重線で示した。  
 15) 表8のS.643, S.643bは筆者の積算ではゼロとした。この2費目だけ、理由は不明だが特殊な貨幣表示(恐らくFlorin du Rhin)されており、換算が困難だからである。ただし、この頁葉小計が原本で8,519 l.、筆者の計算が8,981 lb.でさほど相違がないことを考慮に入れると、同時代の筆記者も上記2費目を小計には入れていない可能性も高い。これはカッコ書きされた7,871 l.という額をどう見るかにもよるが。

## 1467-68年次ブルゴーニュ公財政の支出見積étatに関する史料論的考察

表8 ソルネー版での小計と合計

番号と頁葉	金額	原本での小計	実際の小計	備考
607	I	72000 l.		
608		6000 l.		
609		4000 l.		
610		2000 l.		
611		2000 l.		
612		1000 l.		
613		0	Neant	
614		2000 l.		
615		20000 l.		
616	(f <sup>o</sup> 1 v <sup>o</sup> )	6000 l.	Somme [en blanc]	115,000 原本は金額空欄
617		30000 l.		
618		4800 l.		
619	II	15000 l.		
620	III	240 l.		
621		0	Neant	
622	V	4000 l.		
623	VI	3840 l.		
624	III	4800 l.		
625		4800 l.		
626	VII	1440 l.		
627	VIII	1440 l.		
628		657 l.		
629		657 l.		
630	X,bon	800 l.		
631		600 l.		
632	XII,bon	320 l.		
633		960 l.		74,354 原本金額記述なし
634	(f <sup>o</sup> 2)	657 l.		
635		657 l.		
636		657 l.		
637	IX	720 l.		
638		2336 l.		
639	X	800 l.		
640	XI	438 l.		
641		438 l.		
642		438 l.		
643	X	0	2.920 F.R.	
643b		0	2.000 F.R.	
644	XII	1200 l.		
645	XIII	730 l.	[Somme:] (7.871 l.) 8.519	9,071
646	(f <sup>o</sup> 2 v <sup>o</sup> )	876 l.		
647		730 l.		
648	XIV	9000 l.		
649		32 l.		
650		32 l.		
651	XV	72 l.		
652		180 l.		
653		438 l.		
654		180 l.		
655		80 l.		

番号と頁葉	金額	原本での小計	実際の小計	備考
656	120 l.			
657	165 l. 12 s.	Somme: 11,905 l. 12 s.	11,905	小計一致
658 (f <sup>o</sup> 3)	180 l.			
659	100 l.			
660	20 l.			
661	20 l.			
662 XVI	90 l.			
662b	240 l.			
663	200 l.			
664	164 l. 5 s.			
665 XVII	60 l.			
666 XVIII	30 l.			
667	200 l.			
668 XIX	225 l.			
669	32 l.	Somme: 1,561 l. 5s.	1,561	小計一致
670 (f <sup>o</sup> 3 v <sup>o</sup> )	400 l.			
671	200 l.			
672	2293 l. 4 s.			
673	438 l.			
674	555 l.			追記分を合算
675 XX	328 l. 10 s.			
676	246 l. 2 s.			
677	180 l.	Somme: 4,859 l. 16s.		
678 XXI	219 l.	Somme: 99,751 l. 13s.	4,859	小計一致。S.617からS.678の合計は101,750 l. 13s.
679 (f <sup>o</sup> 4)	800 l.			
680	2739 l. 4 s.			
681	4800 l.			
682	657 l.			
683	1920 l.			
684	657 l.			
685	200 l.			
686	240 l.			
687	2400 l.			
688	328 l. 10 s.	Somme: 14,741 l. 14s.	14,741	小計一致
689 (f <sup>o</sup> 4 v <sup>o</sup> )	200 l.			
690	16 l.			
691	219 l.			
692	219 l.			
693 XXII	146 l.			
694 XXIII	60 l.			
695	182 l. 10 s.			
696	768 l.			
697	16 l.			
698	96 l.	Somme: 2,022 l. 10s.		
699	100 l.	Somme: 16,764 l. 4s.	2,022	小計一致
総計	233,513 l. 57 s.		233,513	

ところがこうした混乱を示す前半部分とうってかわって、後半部分については、同時代の筆者による小計額は正確な数値を示す。とりわけ第3葉裏のS.674では、当初の336 lb.に219 lb.が追記されているのだが(計555 lb.)、そのことがきちんと小計に反映されている点は印象的である。無論例えば、S.644カッコ中の648 lb.が実際には657 lb.であるなど、小さな計算ミスがあるにはある。しかしながらそれも含め、前半部分における小計の欠如といった状況は、当時次々に寄せられる費目を積算しつつこの支出見積全体を作成する過程で、頁葉ごとの小計作業を困難にさせるような追加項目が少なからずあった、と考える方がむしろ自然である。

そこで、ソルネー版に現れている金額を単純に総計してみると、表8の最終欄で示す通り、23万3513 lb.ほどという数字が出てくる。これに、同時代にも《Neant》として金額が記されていない費目があることを考慮すると、実際はもっと大きな数字となることは疑いない。従って単純に結論すれば、前年次収入額209.390 lb.ほどに対して10%以上の赤字になるという結果を、この時点での支出積算作業はもたらしたのである。

### 検討を終えて

史料として伝来はしていないものの、初代ヴァロワ朝ブルゴーニュ公のフィリップ＝ル＝アルディ以来、会計役人の手によってétatが作成され、収支報告が行われていたことは確かだとされる。それは公国財政の概要を知る上で非常に重要な会計資料であったに違いない。第3代公フィリップ＝ル＝ボンの治世下、1445年に恐らく初めて公国全体の財務概要を示すétatが

作成された。結果は大幅な赤字であったことは既に見た(藤井[2004]p.386-387)。

同じくフィリップ公最晩年で死去に至る1467年の後半から同年末にかけて、公国を形成する各領邦の財政を司る会計官により、各地の収入報告書が会計院へもたらされた。会計院に在駐する財務・会計役人たちはそれらを取りまとめた上で、公国全体の収入見積をまず行い、それをもとに翌年次以降必要となる支出の見通しを得ようと、支出額を積算していった。アルヌール版・ソルネー版ともリエージュ領の追加収入を除くと、いずれも21万lb.弱の純収入だったことを示している。これに対し、表5で空欄とされた箇所の小計も入れて支出を合計すると、23万3000 lb.強となり、未記入の費目の存在を考慮に入れば、ここでもかなりの赤字となることが見込まれる。

この時の収支見積の作成が、通常の財務処理の一環だったのか、それとも何か特殊な事情と目的のもとで行われたのか、残念ながら知ることは困難である。しかし、1467年6月に3代公フィリップ＝ル＝ボンが逝去し、公太子シャルルが新公に登位しようとするまさにその時期に、公国全体の収支見積が行われたということは、後者のニュアンスを強く感じさせる。この時、本論第Ⅱ節で明らかにした通り、支出見積の後半部分での積算項目が、ブルゴーニュ公治世にとって重要な人物たちへの定期金や給付金で埋め尽くされている、という事実にとりわけ注目すべきであろう。公位継承というクリティカルな時期に、新公シャルルが財政基盤を明確に内外に示すことで、治世の安定を図ろうとしたように、筆者には思える。もちろん、これはあくまでも推論に過ぎない。しかし、その後10年ほど続くシャルル＝ル＝テメレールのブル

ゴーニュ公国拡大路線は、そうした財政的な裏付けなくしては不可能であったことは間違いがない。

前稿で結論したように、「中世的家産経済から近代的財政国家へと変貌を遂げつつあった」ブルゴーニュ公国は（藤井[2004]p.390）、危ういながらも収支均衡を常に保とうとした財務役人たちとそのシステムの存在を浮き彫りにする。本稿で取り上げた*état*の存在は、彼らとその機能を抜きにして、中世後期ブルゴーニュ公国の

「近代」国家としての成長過程を論じることができないことを示しているのである。

\*本稿は、財団法人学術振興野村基金研究プロジェクト（平成17～19年度）：「国際化・分権化時代の日本経済に関する政策形成・評価の総合的研究」（研究代表者 九州大学大学院経済学研究院 教授 室山義正）による研究成果の一部である。

[九州大学大学院経済学研究院 教授]